

## 編集後記

『記録と史料』第29号をお届けします。特集のテーマは「平成30年7月豪雨における資料保全活動」です。平成30年度も大阪北部地震や北海道胆振東部地震、台風等により全国で災害が発生しました。平成30年7月豪雨については、会長名で「公文書等の保全・保存に関する要望書」が提出されています（本号「資料ふぁいる」に掲載）。本誌では過去にも災害対応についての特集をしましたが、岡山県・広島県・愛媛県の機関会員等に初動から復興に向けての動向や被災資料の保全体制の形成等を執筆いただくことは会員の皆様の活動の参考になると考えテーマを設定しました。また、第22期（平成29・30年度）は2年間とも全史料協でも災害対応を行いました。対応を所掌している調査・研究委員会の業務を本誌に収録することは本会にとって重要であると考え、同委員会にも執筆いただきました。

編集後記担当は、全史料協が呼びかけを行った、愛媛県西予市役所の水損行政文書レスキューに全日程参加しました。初日から水損文書の乾燥作業ができたのは、個人・機関会員から提供された、段ボール箱数十箱におよぶ支援資材があったからです。また、複数の会員の方とご一緒しました。このような当会の実績も併せて記録していければと思います。

「アーキビストの眼」は4本です。法政大学の環境アーカイブズについて、10年間の活動や資料保存機関としての大学の役割、類縁機関との連携等について紹介いただきました。また、平成30年度公文書館機能普及セミ

ナー in 静岡の開催報告と2名の参加記からは「災害と公文書管理」というテーマの下、静岡県での公文書や歴史的な文書の管理・公開が検討されたことが分かります。

「世界の窓」は3本です。カナダのアーカイブズを訪問・調査された報告では、学校・地域との連携や財源の確保等も調査されています。また、アメリカの大学院でアーカイブを専攻し、その後司書として勤務されている方に教育カリキュラムや業務について寄稿いただきました。そのほかにICAの部会のワークショップの参加記を投稿いただきました。

「アーカイブズ・ネットワーク」は6本です。国立大学の文書館の「国立公文書館等」指定、2つの市の文書館の開館、大学における学術支援をささえる拠点形成、文書館の大規模改修工事とその間の閲覧提供の継続への取り組み、公文書館の整備とさまざまなお立場から執筆いただきました。

「書評と紹介」は5本です。デジタルによるアーカイブズの管理運用、利用者が描く公文書管理の問題、SNS利用による所蔵資料や館の概要等の紹介、日本のフィルムアーカイブ活動、近世を対象とした文書管理史といった幅広い内容の書籍を紹介いただきました。

平成30年4月1日より、本誌の掲載記事が、発行後1年を目途にJ-STAGEで閲覧できるようになりました。ご活用ください。

(宇)

〔広報・広聴委員会〕

佐合圭一（委員長）／高木秀彰（編集長）  
宇野淳子／坂口貴弘／田中友香理／福嶋紀子  
藤吉圭二／吉原大志／原田真由美（事務局）

会誌 記録と史料 第29号 2019（平成31）年3月29日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会  
〒930-0115 富山市茶屋町33-2 富山県公文書館  
電話 076-434-4050 FAX 076-434-4093

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（会長 定兼 学）  
〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 岡山県立記録資料館  
電話 086-222-7838 FAX 086-222-7842

印刷： 株式会社チューエツ  
〒930-0057 富山市上本町3-16 上本町ビル  
電話 076-495-1310 FAX 076-495-1316